



教室活動のデザインⅧ

「教室活動のデザイン」シリーズでは、教室で行っている活動を振り返り、参加者のみなさんとともにその改善に向けた検討と情報共有を行います。今年は2つのワークショップ(以下WS)を実施します。1日目(9日)のWS①では、TBLTについて学び、その知見を活かしたタスク作りを行います。2日目(10日)のWS②では、「聴く力を高める授業」について講義で理論面を学び、その知見を活かした授業案などの作成を行います。なお、各WSは独立しており、それぞれ対象者が異なります。ご了解の上ご参加ください。

◆WS①◆ 講師:百濟正和氏(英国・カーディフ大学)

「タスクを作ろう! -Task Based Language Teaching(TBLT)の知見を活かして-」

◆WS②◆ 講師:福田倫子氏(文教大学), 横山紀子氏(国際交流基金日本語国際センター)

「聴く力を高める授業のデザイン -理論に基づいた実践のために-」

日時:WS① 2016年1月9日(土) 10~16時 WS② 2016年1月10日(日) 10~17時

会場:政策研究大学院大学(〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1)

地図はこちら⇒ <http://www.grips.ac.jp/about/access/>

※教室詳細は、受講決定者にお知らせいたします。

定員: WS① 40名 WS② 80名 ※講座ごとに先着順。

締切: 2015年12月24日(木) ※締切日前でも各講座定員になり次第受付を終了します。

受講料: いずれか1日のみ参加の方⇒一般 5,000円/日本語教育学会員 4,000円/学生 3,000円
2日間とも参加の方⇒一般 10,000円/日本語教育学会員 8,000円/学生 6,000円

申込方法:

- ・申込書は日本語教育学会ホームページ <http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm> からダウンロードできます。
- ・Eメール添付、またはFAXでお送りください。メールの題名は「教室活動のデザイン申込」としてください。
- ・受講料は事前振込制です。申込書が届き次第、銀行の振込先を記した受領メールをお送りします。

注意事項

- ・お電話でのお申込みは承りません。また、本研修に関する学会からの連絡は基本的にEメールで行います。
- ・2つのWSは完全に独立しています。どちらか1日だけの参加でも2日間連続でもご参加いただけます。
- ・2日間ご参加になる方は、WSにより応募書類の質問事項が異なるため、お手数ですがそれぞれの申込書に記入し、申込書を2枚送ってください。(ただしその場合WS②申込書の住所等の記載は省略可)
- ・申込書を送っても学会からの返信メールが到着しない場合は、申込書の不着の可能性がございますので、必ずご自身の責任においてメールの再送や電話等の別手段にてご確認ください。

申込および問合せ先:

公益社団法人日本語教育学会 教師研修委員会事務局

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-4-1 東方学会新館2F

電話:03-3262-4291 FAX:03-5216-7552 Eメール:kyoshikenshu(あつとまーく)nkg.or.jp

※対応時間平日9~18時のみ、12月29日~1月3日は年末年始休業。



【WS①】

タスクを作ろう！

-Task Based Language Teaching(TBLT)の知見を活かして-

日時:2016年1月9日(土)10~16時

講師:百濟正和氏(英国・カーディフ大学)

コーディネーター:菊岡由夏, 倉本文子, 岩田夏穂(教師研修委員)

対象:タスクを取り入れた授業実践をしてみたい人・TBLTの基本的な考え方について学びたい人

近年、日本語の教え方も大きく変化しています。実際のコミュニケーションに配慮した授業活動はもちろん、課題遂行あるいは内容重視など、授業展開におけるさまざまなアプローチが行われるようになりました。本研修は、このような授業を行うに当たって重要となる「タスク」を、Task Based Language Teaching(以下、TBLT)の観点から捉えなおしてみようというものです。タスクを作る時のポイントについて学び、それらを活かしたタスクとその展開をデザインすることを目指します。

当日のスケジュール:(予定ですので変更することがございます)

10:00-12:30	ワーク①:これまで教室で行ってきた「タスク」をふりかえってみよう。 講義①:TBLTとはどんな教授法か。 ワーク②:これまで自身が実践してきたタスクをTBLTの観点から捉え直すことによって、TBLTの考え方に基づくタスクの目的と特徴を確認する。
12:30-13:30	昼食休憩(60分)
13:30-15:30	講義②:タスク・デザインで考慮すべきポイントとは何か。 ワーク③:講義②で提案されたポイントを取り入れて、タスクチェーンをベースとした一連のタスクを完成させる。 発表:ワーク③で作成したタスクの発表と共有
15:30-16:00	まとめ、質疑応答、アンケート記入

事前課題:これまでに自分の日本語教育実践で使用したタスクがあれば、ご持参ください。

参考文献:百濟正和「TBLTの日本語教育への応用と実践:タスク統合型の言語教育デザインに向けて」『第二言語としての日本語の習得研究』(16), 74-90, 2013-12

講師から一言:

タスク活動、またはタスク中心の教授法ということばを聞いたことはあるけど、実際にどんな活動なのだろう、そしてどんな教授法なのだろうと思っている日本語教師の方は少なくないかもしれません。このタスクを中心にして日本語を教えるとはどういうことか、実際どんなふうにタスクを作るのか。私の実践の話をおりませながら、わかりやすくお伝えしたいと思っています。参加者の皆さんには、研修後の自分の授業を少し変えたいかなるようなヒントを見つけていただけたら嬉しいです。(百濟正和)





【WS②】

聴く力を高める授業のデザイン

—理論に基づいた実践のために—

日時:2016年1月10日(日)10~17時

講師:福田倫子氏(文教大学), 横山紀子氏(国際交流基金日本語国際センター)

コーディネーター:石澤徹, 保坂敏子, 松下達彦(教師研修委員)

対象:現職の日本語教員, 日本語教育研究者, 日本語教育の勉強・研究をしている学生・大学院生など

音声・映像を使った授業は多く行われていますが, どうすれば学習者の内容理解が進み, より魅力的な授業づくりができるでしょうか。音声メッセージが理解できない原因には, 音の聞き取り, 背景知識, 処理能力など, 多様な要素が関わっています。本WSでは, お二人の講師にそれぞれの専門的観点からアドバイスをいただき, 参加者の討議を通じて, 映像付き音声素材を用いた授業づくりを考えていきます。具体的にはインターネットで利用できる番組を共通の素材として授業案を考え, 討議を深めます。一つの素材を複眼的に見ることで, 「対象や目的に応じた柔軟な授業づくり」をどのように進めていくかについて考える場にしていきたいと思います。

当日のスケジュール:(予定ですので変更することがございます)

10:00~10:10	講師紹介, 趣旨説明
10:10~12:30	講義①(福田)「学習者は聴いた言語材料をどのように処理しているか」 講義②(横山)「過程重視の聴解指導:言語項目の不足を補い, 言語項目の習得につなげる」 質疑応答, グループ分け
12:30~13:30	昼食休憩(60分)
13:30~15:00	講義内容を踏まえて, グループごとに授業の目標を設定し, 共通の素材を利用した授業案 ／教材を作成, 展示する
15:00~16:00	ポスター発表
16:00~17:00	パネルディスカッション, まとめ

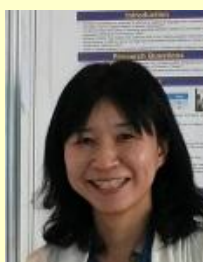
事前課題: お申込み後にご連絡するインターネット番組を視聴し, どのような授業ができそうかアイデアを考えてきてください。(NHK for School を予定。http://www.nhk.or.jp/school/。番組名やURL等の詳しいご案内は12月末頃を予定しております)。

参考文献: 横山紀子, 国際交流基金(2008)日本語教授法シリーズ5『聞くことを教える』ひつじ書房

講師から一言:

聴解の授業では, 何をどうすれば聴けるようになるのでしょうか。「聴けた」というのはどのような状態なのでしょうか。ブラックボックスである学習者の頭の中を推測しながら「聴けた」状態を作る授業づくりについて皆さんと検討できればと思います。

(福田倫子)



教室外の聴解に対応する力の育成を考えると, 未習の単語や表現を含んだ音声に取り組むストラテジーの学習が重要です。また, 聴解が言語習得を促進する機会となるためには, メッセージの意味理解で終わらず, 言語形式にも注目したフォローアップが重要です。これらのことを具体例によって考えていきましょう。(横山紀子)





【日本語教育学会教師研修委員会宛】 メール kyoshikenshu@nkg.or.jp FAX 03-5216-7552

「教室活動のデザインⅧ◆WS①タスクを作ろう！」(2016年1月9日)

参加申込書

氏名	(漢字) (ローマ字)
所属	所属先名: 役職(学生は学年):
会員種別	<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 日本語教育学会会員 [No.] <input type="checkbox"/> 大学院生
住所	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場
電話	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> 携帯
FAX	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> なし
E-mail 携帯アドレス不可	※連絡の基本はEメールとなりますので、間違いがないかご確認ください。
日本語教育経験	年数: 年 主な対象者・レベル()
1.受講動機	
2. タスク作りを通して目指していることは何ですか。	
3.タスク作りで困っていることがあればお書きください。	
4.Task Based Language Teaching (TBLT)について、知りたいことがあれば教えてください。	
※文字数等は問いませんが応募用紙全体がA4, 1枚に収まるようお願いいたします。	
この研修コースを何で知りましたか。該当するものに☑をつけてください。	
<input type="checkbox"/> (1)学会からのメール <input type="checkbox"/> (2)その他からのメール() <input type="checkbox"/> (3)学会ホームページ <input type="checkbox"/> (4)学会からのチラシ <input type="checkbox"/> (5)学会誌『日本語教育』 <input type="checkbox"/> (6)友人・知人 <input type="checkbox"/> (7)大学・日本語学校等機関() <input type="checkbox"/> (8)その他()	
当日研修の様子を記録・広報等の使用目的で写真撮影をいたします。 該当するものに☑をつけてください。 →研修当日の撮影を <input type="checkbox"/> 承諾する <input type="checkbox"/> 承諾しない	



【日本語教育学会教師研修委員会宛】メール kyoshikenshu@nkg.or.jp FAX 03-5216-7552

「教室活動のデザインⅧ◆WS②聴く力を高める」(2016年1月10日)

参加申込書

9日のWS①の参加	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし WS①も受講される方は、以下の★印項目の記入は省略可
氏名	(漢字) (ローマ字)
★所属	所属先名: 役職(学生は学年):
★会員種別	<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 日本語教育学会会員 [No. _____] <input type="checkbox"/> 大学院生
★住所	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場
★電話	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> 携帯
★FAX	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> なし
★E-mail 携帯アドレス不可	※連絡の基本はEメールとなりますので、間違いがないかご確認ください。
<p>1. 日本語教育経験年数: _____ 年</p> <p>2. 現在主に教えている学習者の日本語レベル: <input type="checkbox"/>初級 <input type="checkbox"/>中級 <input type="checkbox"/>上級 <input type="checkbox"/>その他(_____)</p> <p>3. 受講動機 (特に聴解指導について困っていること・疑問に思っていることがあればそれもお書きください)</p> <p>4. よく使用している聴解教材があれば教えてください。</p>	
※文字数等は問いませんが応募用紙全体がA4, 1枚に収まるようお願いいたします。	
この研修コースを何で知りましたか。該当するものに☑をつけてください。	
<input type="checkbox"/> (1)学会からのメール <input type="checkbox"/> (2)その他からのメール(_____) <input type="checkbox"/> (3)学会ホームページ <input type="checkbox"/> (4)学会からのチラシ <input type="checkbox"/> (5)学会誌『日本語教育』 <input type="checkbox"/> (6)友人・知人 <input type="checkbox"/> (7)大学・日本語学校等機関(_____) <input type="checkbox"/> (8)その他(_____)	
当日研修の様子を記録・広報等の使用目的で写真撮影をいたします。 該当するものに☑をつけてください。 →研修当日の撮影を <input type="checkbox"/> 承諾する <input type="checkbox"/> 承諾しない	